

ドゥブロヴニク

今や欧州の人気最上位のドゥブロヴニク。確かに中身はギューギューに凝縮して魅力一杯。1泊2日なら欧州BEST



ストーン

名物は城壁と塩と隣町マリストンの牡蠣。塩づくりは紀元前前から今の姿になったのも1300年という欧州最古参。



コトル

モンテネグロで最高人気の港街。名物の城壁を登るのに1時間は掛かる。頂上の砦から見下す絶景は世界的に有名



スヴェティ ステファン

栈橋の先に群れる家々は実は超高級ホテル。AMANが小さな島を買い取って開発。客以外は橋を渡れない

CROATIA&MONTENEGRO

2019. 8. 2-8



クロアチア王国国旗

城壁に護られて赤い屋根が乱舞



モンテネグロ共和国国旗



昨年の夏休みはスロベニアだったので、旧ユーゴスラビアに興味を湧いての第二弾。今回はクロアチア&モンテネグロ。アドリア海の国々は今人気絶頂で、日本人観光客も一杯では...と思っておりましたが、ドゥブロヴニクでさえ日本人が少なく、ましてやモンテネグロでは数人しか会いませんでした。独立後の内戦で痛めつけられたクロアチアと、旧ユーゴスラビアで最後の独立となったモンテネグロ。今はもう、色々な苦難を超えて明るい表情をみせていました。どうしてこんなに青いのかと思わせるアドリア海の海辺を走るバスは痛快で、何も考えずに窓の外を眺めるのみ。でもストーン、コトルで待っていたのは過酷な城壁登り。ゼイゼイいいながら頂上を極めれば...眼下には赤い屋根瓦のカオス。やっぱり町並は屋根にある...と思いましたが、下に降りて町中の迷路を歩けば、みえるのは壁だけ。「ん？」とわからなくなりながらスヴェティステファンに行ってみると、そこには屋根と壁の家の群れが小さな島の上に群れていました。

昨年は連日移動して大変だったので、今年はドゥブロヴニク、コトルを基点に近郊の観光地であるストーン、スヴェティステファンをバスで往復しました。これで楽ができると思ったのですが、このバス事情が恐ろしい(後述)。それでも連日快晴で日差しは鋭くとも爽やかで、夜も寝冷えするほど。宿泊は2ヶ所共にアパートにしましたが、ドゥブロヴニクでは新築にコトルでは古い家のリノベを体験しました。



- 2日 : 11082歩/6.6km
- 3日 : 21759歩/11.9km
- 4日 : 11522歩/6.6km
- 5日 : 19737歩/11km
- 6日 : 15619歩/8.9km
- 7日 : 17467歩/9.7km



ドゥブロヴニクと旧ユーゴスラビアの歴史

アドリア海の真珠と唱われる美しいドゥブロヴニクはアマルフィ、ピサ、ジェノヴァ、ベネツィアと共に5つの海洋共和国に数えられ、15、16世紀にはベネツィアと肩を並べる勢力を持っていました。その後は17世紀の大地震、オスマン帝国とベネツィアの支配、19世紀にはナポレオン軍の包囲、ハプスブルグ家の支配、そして第一次世界大戦後にユーゴスラビア王国が建国されます。

「七つの国境、六つの共和国、五つの民族、四つの言語、三つの宗教、二つの文字、一つの国家」と表現される複雑な国ユーゴスラビア。この百年の間に1つになったかと思えば、1991年から分離独立がはじまり、2006年にモンテネグロが最後の独立をしたことで、セルビア、クロアチア、スロベニア、ボスニア・ヘルツェゴビナ、モンテネグロ、北マケドニア、コソボの8つの国が誕生しました。※ユーゴスラビアの歴史詳細は2018年の報告書を参照下さい

セルビア主導のユーゴスラビアを嫌ってスロベニアとクロアチアは独立(1991)。ユーゴスラビア連邦軍との戦闘が始まり、長期化して泥沼状態になりました。専守防衛を貫いてきたドゥブロヴニクは旧市街の惨事を避けるため非武装化していましたが、セルビア・モンテネグロから7か月に亘って砲撃を受けました。大きく破損した旧市街ですが今では見事に復活しました。

モンテネグロの歴史

一方、モンテネグロは12世紀後半に中世セルビア王国に組み込まれたことからセルビアとの縁が始まります。14世紀にはオスマンとヴェネツィアに支配される中で、両国とのバランスをとりながら領土を維持しツエティニに首都を定めます。その後オスマンが弱体すると独立、19世紀の露土戦争ではセルビアと共に参戦し、念願のアドリア海岸を獲得。1913年のバルカン戦争でも勝利して多くの領土を獲得しました。しかし、第一次大戦でオーストリア軍に占領され、セルビアとの連合を決意して国名をセルビア・モンテネグロと改名。その後はセルビアと共に隣国クロアチアとの激しい紛争となりました。・・・こうして南スラブ人の国として連合していたユーゴスラビアの国々ですが、それぞれが独立する中で、激しい戦闘が繰り返されたのです。

今回の旅行でクロアチアとモンテネグロの国境をバスで通過しましたが、お互いのイミグレで、乗客全員がパスポートに出入国の印が押されました。その手続きでかなりの時間が掛かる中、今の時代の観光を考えればあり得ない意固地な態度をみたような気がしました。



クロアチア・モンテネグロ国境



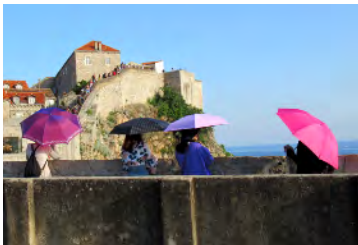
クロアチア王国の国旗

チェックの盾紋で上部に古クロアチアの5地域の紋章。赤：尊い血の犠牲、白：眩く輝く光明、青：澄みわたる空



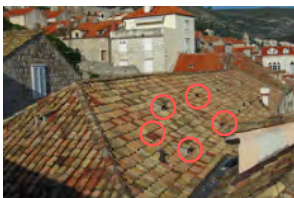
モンテネグロ共和国の国旗

近代モンテネグロ王国紋章に由来。双頭の鷲は王国時代の、聖マルコのライオンはベネチアのシンボル



日傘が人気？

欧州の夏の暑さは陽の強さで、ここで活躍するのが日傘です。でも日本人観光客が少ないので目立ちません。そんな中でカラフルな傘を差すグループがいました。日本人ではなく中国人でした。私も今回日傘をもっていきました。



屋根の通気口？

ドゥブロヴニクの城壁巡りで面白い物を見つけました。瓦屋根の通気口だと思えます。まるで沖縄のイーチミー。



左はドゥブロヴニクのステーキ、下左はコトルのタコサラダ、下右はドゥブロヴニクの卵サラダ。とにかく料理と街を味わうのが欧州グルメ

街の中の雰囲気メイン料理



ストンの隣町マリストーンは牡蠣で有名。レモンで食べるのが流儀。ツルツルと8個はあっという間だった。



海老を頼んだら海老ばかり大量にきた。とにかく指でむしって食べるのだが、皿の上に山盛りの残骸



ここはイカも食べなくては・・・ということで頼んでみたらこんなに沢山できて、ただ黙々と食べたがウマイ。



この巨大なものは何？もちろんスイカです。そしてもちろん1人旅では買えません。真っ赤に熟れて美味しそう。

城壁のある都市三題

今回の旅行の目玉といえば城壁のある中世の都市を巡ることでした。ドゥブロヴニク、ストン、コトル。ドゥブロヴニクは平らな城壁に囲まれ、ストンとコトルは険しい石灰岩の岩壁に刻まれた城壁。往時は人を入れなければ護れた時代で城壁は不可欠なものでしたが、今では何の力もありません。でもなぜか、その土地に生きる人間の生き様が、今よりずっと重くみえてきます。



コトルの城壁



コトルの城壁の頂上にある砦から見下ろしたコトル旧市街と新市街



←ストンの城壁



ストンの城壁から見下ろしたストンの街と塩田



城壁に囲まれたドゥブロヴニク旧市街

● **ドゥブロヴニク**の城壁は16世紀に建築が始まり、15世紀にはオスマントルコからの攻撃に備えるため、現在の姿になりました。全長1940m、四隅に4つの城砦があります。ケーブルカーでスルギ山の頂上から見下ろすと、どうしてこんな平らな土地があったのか、それとも埋め立てたのか？と調べてみたくなりますが、よく分かりません。

● **ストン**の城壁は5kmにも及び、平坦な土地に密集する旧市街を護る形で、岩壁の部分に一重と別の一重が山の頂上まで伸びています（二頁の写真参照）。

イギリスのハドリアヌス城壁に次ぐヨーロッパ第二の長さを誇り、牡蠣で有名な隣町マリストーンまで城壁伝いに行くことができます。城壁は砦の建設と共に16世紀から始まり16世紀初頭には完成しています。マリストーンまでつながる城壁部分はとても急でゼイゼイいわせながら頑張って登りました。

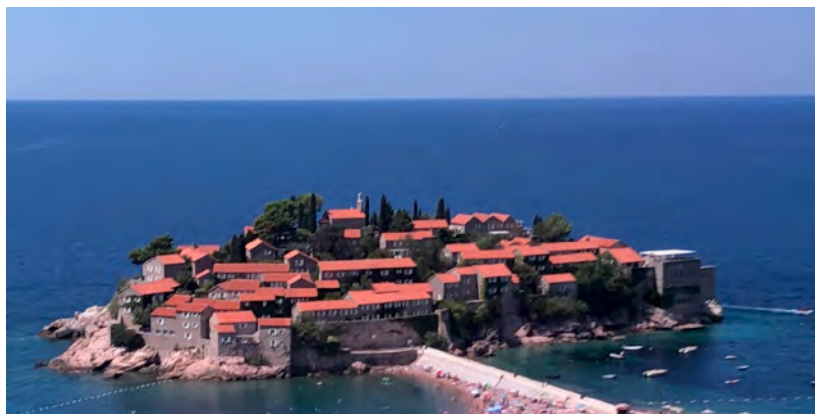
● **コトル**の城壁は関係の深かったヴェネツィア共和国によってつくられました。旧市街の背後に覆い被さるような急峻な岩壁に刻まれた城壁は、頂上まで小一時間。見下ろすコトルの街は湖に面しているように見えますが、アドリア海が回り込んだリアス式海岸。深いので豪華客船も入港します。

● 城壁が楽しいのは街を見下ろせるから。その赤い屋根瓦の密集した姿が圧巻です。やっぱり町並は屋根がつくる…と思って街に降りて観ると、今度は壁しか見えません。

● その屋根と壁を見事にマッチさせた風景をみせるのがスヴェティステファンのAMAN。壁のベージュに屋根の赤が浮いています。



ドゥブロヴニクのマイン通り。壁しかみえません。



スヴェティステファンのAMAN。壁の上に赤い屋根がふわっと浮いています。

BUS事情

クロアチアもモンテネグロも海沿いはバスが定番。なのにこのバス事情が雑。



ドゥブロヴニクのバスターミナルは旧市街から市バスで10分の処にあり、まずは市バスでそこまで行くのが面倒。時間は出発でさえ守られず、到着は1、2時間遅れて当たり前。乗客でごった返すのにチケット売り場は1つだけです。

●とにかくドライバーでも誰でもつかまえて聞くしかありませんが、彼らは全ての質問に堂々と現地語で答えるのです。ただ嬉しかったのは日本人だと「やー」と言って侍の真似をする人が多く、日本人は好かれているようです。



●こんなバス事情でもネットでチケットは購入でき、私も事前に購入しました。何とストン行きでも座席指定できました・・・と思って乗車してみると座席にNOがありませんでした。

GRADSKI VOZNI RED - CITY TIMETABLE			
1A	2	4	7
1m	2	3	8
3A	5	6	9
			17

市バスの時刻表はあって、全てのバス停に貼られているのですが、何故かすべて時刻が同じです。つまり起点となる「ピレ門」の時刻が書かれているだけで、それぞれのバス停ではそれを参考にして自分で考えなさい...といっているのです。

●コトル行きのバスはもっと先まで行くバスで（ネットではコトル行きのはず）「コトル行き？」とドライバーに聞くと、指をぐるぐる回して何か言っているだけ。どうやら先に行く者から順次バッグを荷物入れに押し込むようで、最初の街コ

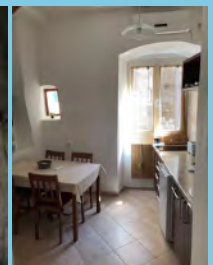
トルへ行く者は後になりました。もうバスの中は客で一杯の雰囲気。「さあコトルの番だ」といったように聞こえたので慌てて並ぶと、私の目の前で「終わりだ」と手が振られました。

まさか・・・と思って振り返るとまだ20人くらいは残っています。そのほとんどの手にネットで購入したチケットが握られています。つまり完全にオーバーブッキング・・・というより、数なんて把握せずにネットで売っているのでしょうか。どうすればいいんだ？と置いていたらドライバーが汗かくで戻ってきて「お前は乗っていい」とでもいうように私の荷物を押し込んで・・・こうして私は最後の客となり、しかも一番前の海側の席をもらって超ラッキー。写真は乗れなかった人達の途方に暮れる顔。もちろん日本人だから乗せてくれたとは思えませんが・・・。

アパートメント

ドゥブロヴニクで3泊、コトルで2泊...どちらもアパートを利用しました。一部屋幾らのアパートに一人で泊まるのはバカバカしいのですが、とにかくドゥブロヴニクのホテルは驚愕価格。しかも旧市街の中は部屋が狭く、海辺はリゾートの軽さが予想されました。ドゥブロヴニクのアパートは24000円/泊・部屋で、コトルの方は17500円。2人なら安いのですが、朝食もなければ何もサービスもありません。鍵はドアに差してあったり、鍵Boxのナンバーがメールで送られてきたり。立派な看板があるわけもなく、ひっそり営業しているのでみつけるのに一苦労。

●片方のアパートのシャワーはお湯が出なかったり・・・でもホテルのように別の部屋に変えてくれることはありません。チェックアウトすれば荷物を預かってもらえず色々不便です。でももし私が管理人だったら、これらの不便さを解消するための情報資料を愛を込めて創ってみせるのですが、彼らにそんなイメージはありません。空港やバスターミナルからの最良のインフラ、荷物の一時預かり所、旧市街への近道、スーパーの場所、密な連絡・・・これらをしっかりさせればアパートに不便はなくなり、良さが浮き出てくると思います。



●ドゥブロヴニクのアパートは旧市街がみえる豪華なテラス付きの新築。コトルの方は築数百年の家をリノベしたもので、よい勉強になりました。こうして誰にも束縛されずに過ごせるアパートが急増していく一方で、至れり尽くせり・豪華絢爛の非現実を味わわせてくれるのが世界のAMAN。モンテネグロにもAMANはあって、スヴェティステファンの海岸の出島をそっくり買い取ってホテルにしました。

●アパート、AMAN、旧態依然としたホテル、昔ならドミトリー宿のシェアハウス・・・沢山の選択肢がある中で、自分の旅にあった絵を描くことが旅行の宿泊ワザになりました。ふと気づいてみると、昔流行ったキャンピングカーはどこに消えてしまったのでしょうか。今回1つとして目にすることはありませんでした。